

国際保健医療協力実務体験研修

看護職海外研修

報告書

2024



目次

はじめに	2
2024 年度 国際保健医療協力に関わる看護職研修概要	4
第 1 章 国際保健医療協力実務体験研修	5
1. 研修概要	
2. 研修日程	
3. 研修評価	
4. 研修総括	
第 2 章 看護職海外研修	11
1. 研修概要	
2. 研修日程	
3. 研修結果	
4. 面談者リスト	
5. 実施概要	
6. 研修評価	
7. 別添資料	
8. 研修総括	

はじめに

国立国際医療研究センター 国際医療協力局長
宮本哲也

グローバル化の進展に伴い、国際保健を取り巻く環境は大きく変化しています。途上国における疾病構造はこの20年間で非感染性疾患（NCDs）へと大きくシフトし、これまでの感染症や母子保健等に加えNCDsへの対応も求められるようになりました。こうした中、2016年より持続可能な開発目標（SDGs）がスタートし、上記課題も含む目標の達成に向けた取り組みが世界で実施されているところです。

我が国においては、国際医療協力の実施中核機関である国立国際医療研究センター（NCGM）に対し、これまで以上に期待が高まっており、センター一丸となってこの期待に応えられるよう努めることが一層求められているところです。こうした中、NCGMでは、2016年10月グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）を設置するとともに、2017年10月にグローバルヘルス人材戦略センター（HRC-GH）を設置し、その機能強化に取り組んで参りました。また、2025年度に、NCGMは国立感染症研究所（NIID）と統合し、新たに「国立健康危機管理研究機構（JIHS）」として発足しますが、引き続きグローバルヘルスに貢献することが求められています。

NCGMでは国際医療協力を従事する看護師の能力開発に係る2つの研修を、平成24年度より国際医療協力局と看護部が連携して実施しています。これらの研修は、その参加を通じ、現場で活動するために必要な資質、能力、姿勢等について、実体験として広く学ぶことができるものです。「国際保健医療協力実務体験研修」は、国際医療協力局の看護職に期待される役割や、臨床現場で習得した専門的知識や経験に基づく能力の重要性を学ぶ研修となっています。「看護職海外研修」は新型コロナウイルス感染症の流行により2019年度より開催を見送っていましたが、今年度より再開しました。今年度はラオス人民民主共和国を訪問し、保健医療の専門知識のみならず法律や制度等幅広い分野の知識を習得し、併せてその国の歴史や文化・価値観を理解することの重要性などについて学ぶ研修となっています。

これらの研修を通じ、研修員には、知識の習得のみならず、看護職という枠を超え国際医療協力に携わる全ての医療職・公衆衛生専門職が持つべき姿勢についても、実体験を通して学ぶことが期待されています。参加への動機、これまでの経験や役職等、その背景は各研修員により異なりますが、参加された方々からは、「低中所得国と我が国では類似した課題もあり、我が国が支援するという姿勢ではなく、SDGs達成に向け互いに協働していくという姿勢が大切であると学んだ」「国際医療協力に携わる上での自己課題を明確にすることができた」などの感想が寄せられています。

このように、研修参加によって国際医療協力への関心がより高められ、具体的なイメージを持てるようになることは私達にとっても大きな喜びであり、今後の我が国の発展の観点からも非常に頼もしく思っています。

国立研究開発法人国立国際医療研究センターは、先端的、学際的、総合的な研究の促進、ならびに新興・再興感染症及びエイズ等の感染症、糖尿病・代謝性疾患、肝炎・免疫疾患、国際医療協力を重点分野とし、国際保健の向上に関しこれまで以上の寄与を目指しております。センター理念として「人間の尊厳に基づき、医療・研究・教育・国際協力の分野において、わが国と世界の人々の健康と福祉の増進に貢献する」ことを掲げ、センター職員が一丸となり、取り組んでおります。

センター病院看護部では、この理念のもと、優れたスペシャリスト・ジェネラリストを育成するために多くの院内研修を実施しています。なかでも、センターの重点分野である「国際医療協力」においては、段階的な研修を導入し、国際医療協力の分野で活躍できる看護職員のキャリア形成を支援しています。

国際医療協力の分野で活躍する看護職員に求められるスキルは、看護に必要な基礎的な看護実践力を基盤とした専門知識に加え、マネジメント力、調整力やコミュニケーション力などが必要です。国内外で実施される研修では、臨床で得た力をいかに発揮するかを探究したり、国際医療協力における当センターの役割・活動を理解する機会となっています。

平成 24 年度から開始した看護職対象の国際医療協力に関する研修は、約 40 年の歴史をもつ当センター国際医療協力局と連携し、実施しています。本研修に参加した看護職員からは「身近な組織の中で、実務レベルの国際医療協力を体験できた」、「今後の自身のキャリアパスを明確にすることができた」、「病棟での日々の業務に通じるものがあると分かった」など、学びを得る機会となっています。

研修を通して得られたこのような学びは、臨床の現場を通して人々の健康と福祉の増進に活かすことができるものであり、さらにはそれぞれが目指す看護師像の指針となっております。NCGM センター病院看護部では今後も、看護職員一人ひとりが「目指す看護師」を目標に成長できるようキャリア形成を支援し、豊かな看護人材の育成に努めてまいります。

2024 年度 国際保健医療協力に関わる看護職研修概要

NCGM センター病院および国府台病院の看護部は、「かけがえのない生命と人間性を尊重しあたたかい看護をめざします」という理念のもと、病院が提供する医療を理解し、看護の専門性を高め、質の高い看護サービスを提供できる看護師の育成を目的とし、積極的に院内教育取り組んでいる。この中で看護部は、「国際的な視点から看護活動や提言ができる看護師を育成する」ことを教育目標のひとつに掲げている。

国際医療協力局では看護部の教育目標に寄与すべく、さまざまな研修を運営している。国際保健の基礎を学ぶ研修としては、年間を通じて自身のタイミングで学習可能な「NCGM グローバルヘルス・ベーシックコースオンデマンド」、3連休を活用して集中的に学べる「NCGM グローバルヘルス・ベーシック一括集中（対面）コース」、既に基礎知識を有する方向けの「NCGM グローバルヘルス・アドバンスドコース」など、多様な学習ニーズに対応したプログラムを提供している。看護職のみならずNCGM 職員においては、これらの研修を受講しやすい体制を整備している。

また、NCGM 看護職に対しては、上記研修の他、国際医療協力における業務理解を促進することを目的とし、「国際保健医療協力実務体験研修」と「看護職海外研修」の2つの研修を実施している。国際保健医療協力実務体験研修では主に国際医療協力局に勤務する看護職員の国内業務を理解し体験できるような構成としており、看護職海外研修では実際に開発途上国に赴き、現地の保健医療ならびに看護の状況と、国際医療協力局看護職の国外での役割や活動概要を理解できるような内容としている。加えて、他職種と協働で学ぶことのできる「NCGM グローバルヘルスフィールドトレーニング」に参加することも可能としている。「NCGM グローバルヘルスフィールドトレーニング」では全国から集まった研修参加者や現地の医療関係者と協働し、実際に現場での介入を体験しながら、国際医療協力に必要な基礎的な知識・技能を習得することを目指している。

以上のように国際医療協力局ではNCGM 看護職が受講できるような様々な研修を実施しているが、本報告書では看護職へ特化した研修である、「国際保健医療力実務体験研修」と「看護職海外研修」の2つに関して報告する。

第 1 章 国際保健医療協力実務体験研修

1. 研修概要

研修目的

国際的な視点から看護活動ができる看護職を育成する。

行動目標

- 1) 国際保健医療協力の歴史、潮流を理解する。
- 2) 国際医療協力局の組織体制・活動概要を理解する。
- 3) 国際医療協力局員の国内外での活動概要を理解する。
- 4) 国際保健医療協力に携わるための自己課題を明確化する。

実施期間

2025 年 1 月 15 日（水）～1 月 22 日（火）

研修内容

- 1) 国際医療協力局の概要に関する講義
- 2) 国際保健医療協力の歴史・潮流に関する講義
- 3) 国際医療協力局における看護職の活動に関する講義
- 4) 国際医療協力局内の会議見学
- 5) 外国人研修の見学・実習
- 6) 国際医療協力局看護職員のキャリア協議
- 7) 研修報告会の実施と報告書作成・提出

研修場所

国際医療協力局内、他

参加者

国立国際医療研究センター病院 看護師 4 名

研修担当

国際医療協力局 看護師 2 名

研修課題

- 1) 事前課題：研修生自身のキャリアパススライドを作成。
参考資料として「国際医療協力局年報」「ニューズレター」「国際保健用語集」を共有した。
- 2) 事後課題：研修報告書の作成および提出。

研修評価指標

- 1) 研修目標の到達に関しては、自己評価を行う。
- 2) 研修管理に関しては、アンケートと評価会を実施する。

2. 研修日程

日付	時間	形態	研修内容
1月15日 (水)	8:30 - 9:00	表敬	局長表敬、オリエンテーション
	9:00 - 10:00	講義	国際医療協力局の概要
	10:00 - 11:00	-	国際医療協力局内見学、PC セッティング・自己紹介等
	11:00 - 12:30	講義	研修課の説明、外国人研修の概要
	12:30 - 13:30	-	休憩
	13:30 - 14:30	講義	JICA 課題別研修：UHC 達成に向けた看護管理能力向上看護管理研修 概要説明
	14:30 - 17:00	見学	【JICA 課題別研修：看護管理】インセプションレポート発表
	17:00 - 17:15	協議	振り返り、翌日のオリエンテーション
1月16日 (木)	8:30 - 9:00	協議	ブリーフィング
	9:00 - 9:30	実習	【JICA 研修：イラク】電子カルテの使用法説明 局内打合せ
	9:30 - 10:00	講義	ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト 本邦研修概要説明
	10:00 - 10:50	講義	国際保健協力の歴史・潮流
	11:00 - 12:00	講義	長期専門家看護師のプロジェクト活動の実際
	12:00 - 13:00	-	休憩
	13:00 - 15:45	見学	【JICA 課題別研修：看護管理】看護管理の概論（講義）
	16:00 - 17:00	講義	連携推進課の説明、看護職としての活動について
	17:00 - 17:15	協議	振り返り、翌日のオリエンテーション
1月17日 (金)	8:30 - 9:00	協議	ブリーフィング、報告会資料・報告書作成について
	9:00 - 10:10	講義	保健医療協力課の説明、広報情報課の説明
	10:30 - 12:00	見学	【JICA 国別研修：ザンビア】感染管理委員会（講義） または 【JICA 課題別研修：看護管理】SDGs および UHC の概要（講義）
	12:15 - 13:15	-	休憩（ザンビア研修員との交流）
	13:30 - 16:45	見学	【JICA 国別研修：ザンビア】 臨床工学科の活動（講義）、医療廃棄物と施設機器（見学）、デブリーフィング
	16:45 - 17:15	協議	振り返り、翌週のオリエンテーション
1月20日 (月)	8:30 - 9:00	協議	ブリーフィング、報告会資料作成
	9:00 - 11:00	講義	保健医療開発課の説明・国際医療協力局の仕事について、展開支援課の説明
	11:00 - 12:30	協議	【JICA 研修：イラク】電子カルテの使用法説明 関係者打合せ
	12:30 - 13:30	-	休憩
	13:30 - 14:20	講義	展開事業ベトナム脳卒中の活動説明
	14:30 - 16:30	協議	国際医療協力局で働く看護職のキャリアパス・自分たちのキャリアパス
	16:30 - 17:15	協議	振り返り、翌週のオリエンテーション、報告会資料作成
1月21日 (火)	8:30 - 9:00	協議	ブリーフィング、報告会資料作成
	9:00 - 10:00	見学	【JICA 課題別研修：看護管理】看護管理者のシャドーイングに関する講義
	10:00 - 10:30	実習	【JICA 研修：イラク】会場設営
	10:30 - 11:00	自習	報告会資料作成
	11:00 - 12:00	見学	研修課 課内会議
	12:00 - 12:45	-	休憩
	12:50 - 14:30	実習	【JICA 研修：イラク】電子カルテの使用について（説明）
	14:30 - 16:00	実習	報告会会場準備・報告会（協力局、看護部参加）、修了式
	16:00 - 17:00	協議	評価会、振り返り

【JICA 課題別研修：看護管理】UHC 達成に向けた看護管理能力向上

【JICA 国別研修：ザンビア】ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト 本邦研修

【JICA 研修：イラク】イラク保健セクターに関する情報収集・確認調査 本邦招聘プログラム

3. 研修評価

研修最終日にアンケートを実施し、アンケート結果をもとに評価会を実施した。
結果の一部を以下に記載する。

1) アンケート結果

1. 研修目標に応じた各項目の理解度を教えてください。	すべてできた	ほとんどできた	あまりできなかった	全くできなかった
国際保健協力の歴史・潮流を知ることができましたか。	3	1	0	0
国際医療協力局の組織・活動概要を理解できましたか。	3	1	0	0
国際医療協力局の国内外での活動概要を理解することができましたか。	3	1	0	0
国際医療協力に携わるための自己課題を明確化することはできましたか。	3	1	0	0
2. 今回の研修での一番の学びを教えてください。	・ 研修を通して、課題別・国別研修は一方的に知識や技術を教えるではなく、互いに学び合う、という意識で行われていることがわかった。そのために自国のこと、保健医療以外にも政治・経済など幅広い知識が必要であることを理解した。 ・ 「個人知」を「組織知」にしていくという言葉が印象に残った。今までの看護を振り返ると、プライマリー患者の悩みや相談事、係活動で得られた知識や経験をスタッフ間で共有せずに自分の知識、経験にしまっておくことが多かったが、今回の研修を通して「組織知」にしていくことでもっといい看護ができたのではと思うことがあった。今後は、今回の研修で経験したことをはじめ、これから得られる経験や知識をスタッフ間で共有し、チームとしての看護レベルの底上げの一助になればと感じた。 ・ お互いに学び合う姿勢が大切だということが一番の学びだった。研修前は、国際医療協力は、支援する・されるというイメージが強くあったが、研修を通して、日本も他国から学ばなければならないことがあること、国の歴史や文化・地理によって抱えている問題・その背景が異なるため、それぞれの国について学び合わなければならないことがよくわかった。普段の看護でも、患者さんの発言や行動の背景に興味を持ち、相手のニーズに応じていけるように努力していき			

	い。 国際医療協力では、広い視野を持ち、様々な知識を統合して活動していく必要があると学んだ。日々の看護で行っていること一つ一つに根拠を持ち丁寧に患者さんに向き合うことを積み重ねていくことが、今後キャリアを形成するうえでとても重要であると学んだ。また、日々行っていることに無駄なことは一つもなく、1つ1つの経験が今後必ず生かされるのだと学んだ。直接海外と関わっていなくても、NCGMの職員として、医療職として国際医療協力に繋がっていると感じた。そのため、まずは病棟としての役割、その中での自分の役割が何かを考えながら日々取り組んでいきたいと思う。また、何事にも積極的に取り組み、発信していくことで、自身の道が開けることを学んだため、明日から実践していきたい。				
3. 研修の満足度はいかがでしたか。	非常に満足	やや満足	どちらとも いえない	あまり満足 していない	全く満足 していない
	4	0	0	0	0

2) その他評価会の中で上がった意見

- 毎日の学びが多く、自分の中での整理が追い付かなかった。2日目以降、研修の振り返りの時間があると整理できるのではないか。
- 外国人研修員と交流できる時間があり、直接異文化を知る機会になったので、今後もそのような時間があると嬉しい。
- センター病院内での研修やセンター病院スタッフによる講義に入ること、自分が働いている病院と国際医療協力局のつながりが見え、病院の役割を改めて理解することができたため、今後も多く組み込んでもらいたい。

4. 研修総括

国際保健への道を志し、または将来の選択肢の一つとして看護師のキャリアをスタートしたものの、日々の臨床業務が忙しく、国際保健医療協力について学ぶための余裕が持てないと悩む人が多くいると思います。特に国際保健を志す看護職の方々は、国際保健分野において様々なキャリアの選択肢がある中、自身の方向性について考え、焦りを感じることもあるのではないのでしょうか。私自身も同様の悩みを持つ中、本研修に参加したことで、臨床現場での看護実践により目的意識を持って取り組むことやキャリア形成を意識することに繋がった経験があります。今回、研修員の方々が国際医療協力局の実務を体験することで、今後の看護職としての実践やキャリアを考える一助となるよう研修を組み立てました。

本研修中、研修員の方々には、国際医療協力局職員による各種業務や経験をもとにした講義の他、会議等に参加したり、研修実施・運営を中心に実務を体験・見学したりしていただきました。今年度は、研修期間に複数の外国人対象研修が実施されており、その中でもより看護およびセンター病院職員の観点からの学びが多く得られるよう「JICA 課題別研修：UHC 達成に向けた看護管理能力向上」「JICA 国別研修：ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト」の見学に入っていました。研修が円滑に実施され、各国の研修員が少しでも多くの学びを得られるように、国際医療協力局員がどのような動きをしているのか、実際を見ていただき、研修運営の面白さと難しさを感じていただけたのではないかと思います。またインセプションレポート発表に参加し質問をしたり、外国人研修員とコミュニケーションをとる機会を設けたりしたことで、異文化への理解が深まったと感じます。最終日には「JICA 研修：イラク保健セクターに関する情報収集・確認調査」にて電子カルテの使用方法を、実際に外国人研修員に説明する機会を設けました。限られた時間をどのように活用するか、研修員の背景に想いを馳せながら関係者との話し合いを重ね、当日に向けて準備する一連の過程に参画したことで、国際保健医療協力局の活動の一端を、体験を通して理解することに繋がったのではないかと思います。

また、キャリアパス協議では、国際医療協力局看護職からキャリアパスを共有した後、国際医療協力局が掲げている「専門家に求められる5つの能力」をどのように身に付けていくかを協議しました。一見日々の臨床業務と国際医療協力の活動は全く別のように見られることもありますが、臨床での日々の業務と丁寧に向き合っていくことで、5つの能力を培うことができるということを理解できたかと思います。日々の研修の中で、研修員間で学びや考察を共有しながら進め、最終日の報告会では、研修での学びを活かし、今後どのように病棟業務に取り組んでいくか、どのように国際医療協力に携わっていくかなど、熱意を持って発表して下さり、研修員の意欲が伝わってきました。

最後に、本研修へご協力頂いた看護部の皆様、国際医療協力局職員、そして研修へ熱意と真摯な姿勢を持って参加して下さいました研修参加者の皆様へ、感謝申し上げます。

2024 年度 国際保健医療協力実務体験研修
コースリーダー 河原崎彩佳
サブリーダー 菊池識乃

第 2 章 看護職海外研修

1. 研修概要

研修目的

国立国際医療研究センター看護職員のグローバルヘルスに係る能力強化を図る。

一般学習目標

国内および海外研修を通じ、グローバルヘルスの現状や介入手段などを理解する。

行動目標

- 1) ラオス人民民主共和国に係る保健医療関連情報の一部を収集できる。
- 2) ラオス人民民主共和国に係る国際医療協力局看護職の活動を理解する。
- 3) 自己の課題を踏まえ、国際協力に必要な能力を理解する。

実施国

ラオス人民民主共和国

参加者

国立国際医療研究センター病院 看護師 2 名

研修担当

国際医療協力局 看護師 2 名および事務 1 名

構成

本研修は、事前オリエンテーション、渡航前国内研修、海外研修および渡航後国内研修の 4 期で構成した。

研修評価指標

- 1) 研修目標の到達に関しては、自己評価を行う。
- 2) 研修管理に関しては、アンケートと評価会を実施する。

2. 研修日程

日付	時間	研修内容
10月22日 (火)	9:30 13:30 16:00 19:15	成田(NRT)発 ホーチミン(SGN)着 ホーチミン(SGN)発 ビエンチャン(VTE)着
10月23日 (水)	10:00 - 12:00 14:00 - 15:00	NCGM ラオス拠点事務所 JICA ラオス事務所表敬
10月24日 (木)	9:15 - 9:50 9:50 - 11:00 11:00 - 11:30 11:30 - 12:30 13:40 - 14:40 14:40 - 15:00	Mittaphab 病院看護部の概要説明 手術室視察 外来視察 質疑応答 病棟視察 質疑応答
10月25日 (金)	9:30 - 12:00 13:00 - 13:30 14:00 - 15:00 15:30 - 16:30	保健省保健人材カウンスル看護助産委員会 看護師・助産師継続教育制度整備 PJ 概要説明 医師国家試験視察 看護師・助産師継続教育制度整備 PJ 視察
10月26日 (土)	終日	資料整理
10月27日 (日)	終日	資料整理
10月28日 (月)	9:00 - 9:15 10:00 - 14:30	Hatsayfong 郡保健局長表敬 Simano 保健センター視察
10月29日 (火)	9:00 - 12:00 13:30 - 15:00 19:45 20:55	報告書作成および経理処理 Setthathirath 病院看護部の概要説明 ビエンチャン(VTE)発 ハノイ(HAN)着
10月30日 (水)	0:25 7:00	ハノイ(HAN)発 成田(NRT)着

3. 研修結果

本研修の結果は次の通りである。

1) 事前準備渡航

本研修を実施するにあたり、研修総括がラオスに事前渡航し、関係機関との調整などの準備を行った。

目的：2024 年 10 月に実施予定の看護職海外研修での訪問先や日程調整および救急対応可能な現地医療機関に関する情報を収集する。

期間：2024 年 7 月下旬～8 月上旬の 9 日間

2) 事前オリエンテーション

2024 年 8 月上旬に 1 時間で実施した。

場所：国際医療協力局

内容：研修概要説明、予防接種案内、パスポート確認など。

3) 渡航前国内研修

2024 年 9 月上旬に半日で実施した。

場所：国際医療協力局

内容：国際医療協力局長表敬、用務内容説明書作成、事前課題への取り組み、パソコン設定確認、事務手続きなど。

4) 海外研修

渡航国：ラオス人民民主共和国（首都ビエンチャンのみ）

期間：2024 年 10 月 22 日(火) ～10 月 30 日(水)

内容：

(1) JICA ラオス事務所表敬および協議

(2) Mittaphap 病院視察

(3) 保健省保健人材カウンスル看護助産委員会表敬および協議

(4) 看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト視察

(5) Setthathirath 病院視察

(6) Hatsayfong 郡保健局表敬

(7) Simano 保健センター視察

4. 面談者リスト

- 1) 吉村由紀様、JICA ラオス事務所次長
- 2) 四方照美様、JICA ラオス事務所企画調査員
- 3) Ms Syvanh Sibounheuang Mittaphap 病院副看護部長
- 4) Ms Pinkeo Vannalatsamy Mittaphap 病院副看護部長
- 5) Ms Nuanchanh Lattana Mittaphap 病院 VIP Unit 看護チーフ
- 6) Ms Sonemany Montivong Mittaphap 病院外科 Unit 看護チーフ
- 7) Ms Phatthavone Lorvankham Mittaphap 病院腹部外科 看護チーフ
- 8) Ms Chanmaly Sisounthone Mittaphap 病院麻酔科 看護チーフ
- 9) Ms Kingkeo, 保健省
- 10) Mrs. Phengdy Inthaphanith 保健省保健人材カウンスル看護助産委員長
- 11) 永井真理 看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクトチーフアドバイザー
- 12) 天野優希 看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト長期派遣専門家
- 13) 田中 看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト業務調整専門家
- 14) 宮野真輔 保健政策アドバイザー
- 15) Ms Khamlar Sioudom Setthathirath 病院副院長
- 16) Ms Pindavone Phaxayyavong Setthathirath 病院看護部長
- 17) Ms Xayyaphat Kingsada Setthathirath 病院副看護部長
- 18) Ms Somphai Davongsone Setthathirath 病院副看護部長
- 19) Ms Phovvieng Singvongxay Setthathirath 病院看護師
- 20) Ms Sakhone Inthphonedeth Setthathirath 病院看護師
- 21) Ms Naphaphone Khattiyavong Setthathirath 病院看護師
- 22) Ms Khamsouk Vetthana Setthathirath 病院看護師
- 23) Dr Sengthop Saiyasan Hatsayfong 郡保健局長
- 24) Dr Selilak Oumnalhrad, Hatsayfong 郡事務部長
- 25) Ms Hommala Keodalaphone Simano 保健センター長
- 26) Ms Ms Latxanikone Ouipulikoune NCGM ラオス拠点事務所ナショナルスタッフ
- 27) Mr Bounthanom Vongsamphanh, ラオ語日本語通訳

5. 実施概要

1) 海外研修

1	
訪問先	JICA ラオス事務所
日時	2024 年 10 月 23 日(水) 14 時～15 時
目的	表敬訪問および概要説明
目標	日本の政府開発援助実施機関における保健分野の協力の概要を知る。
講師名	吉村由紀様、JICA ラオス事務所次長 四方照美様、JICA ラオス事務所企画調査員
目標との関連	行動目標に関連し、ラオス人民民主共和国に係る保健医療関連情報のうち、日本の保健分野への協力概要について情報収集する。
講義内容	14 時 00 分～15 時 00 分：ラオスにおける保健分野の協力概要に関する講義 ラオスの一般概況、保健指標、保健分野の協力概要、日本の協力の特徴や他の開発パートナーとの協調について説明があった。

2	
訪問先	Mittaphap Hospital (ミタパーブ病院)
日時	2024 年 10 月 24 日(木) 9 時～15 時
目的	視察および協議
目標	現地医療施設における看護の実際を知る。
講師名	Ms Syvanh Sibounheuang 副看護部長 Ms Pinkeo Vannalatsamy 副看護部長 Ms Nuanchanh Lattana VIP Unit 看護チーフ Ms Sonemany Montivong 外科 Unit 看護チーフ Ms Phatthavone Lorvankham 腹部外科 看護チーフ Ms Chanmaly Sisounthone 麻酔科 看護チーフ Ms Kingkeo, 保健省 DHR より同行
目標との関連	行動目標に関連し、ラオスの保健医療関連情報を収集する。
視察および 講義内容	9 時 15 分～9 時 50 分：病院概要紹介 9 時 50 分～11 時 00 分：手術視察 手術室は新棟と旧棟にあるが、今回は新棟手術室を視察した。腹部外科の術中に視察し、看護師の役割や機材管理を視察した。 11 時 00 分～11 時 30 分：外来視察 新棟外来を視察し、受診手順や看護師の役割を視察した。 11 時 30 分～12 時 30 分：質疑応答 概要紹介や看護部の組織などについて質疑を行った。

	13 時 40 分～14 時 40 分：病棟視察 新棟 VIP 病棟を視察し、病棟概要や看護師の役割を視察した。 14 時 40 分～15 時 00 分：質疑 午前中に続き、概要紹介や看護部の組織などについて質疑を行った。 詳細は別添資料 1-1 参照
--	---

3	
訪問先	Nursing and Midwifery Board, Healthcare Professional Council, Ministry of Health (保健省保健人材カOUNシル看護助産委員会)
日時	2024 年 10 月 25 日(金) 9 時 30 分～12 時 00 分
目的	表敬訪問および協議
目標	保健省保健人材カOUNシルおよび保健人材カOUNシル看護助産委員会の役割や機能を知る。
講師名	Mrs. Phengdy Inthaphanith, Head of Nursing and Midwifery Board, Healthcare Professional Council, Ministry of Health
目標との関連	行動目標に関連し、ラオスの保健医療関連情報を収集する。また、国際医療協力局看護職が現地で活動する際のカウンターパート機関に関する情報を収集する。
講義および協議内容	Mrs. Phengdy より、パワーポイントを用いて、以下のような概要説明があった。 9 時 30 分～12 時 00 分： 看護助産委員会設立の経緯や機能 看護師国家試験制度創設の経緯 看護師免許登録制度 詳細は別添資料 1-2 参照

4-1	
訪問先	看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト
日時	2024 年 10 月 25 日(金) 13 時 00 分～16 時 30 分
目的	視察
目標	日本の政府開発援助で実施されている技術協力事業を知る。
講師名	永井真理チーフアドバイザー(NCGM 国際医療協力局医師) 天野優希専門家(NCGM 国際医療協力局看護師) 田中博崇業務調整専門家
目標との関連	行動目標に関連し、国際医療協力局看護職の現地での役割や活動を理解する。
講義および	永井チーフアドバイザーおよび天野専門家よりワード資料を用いて、以

協議内容	下のような概要説明があった。 13 時 15 分～13 時 30 分： 看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト (CPD PJ) の背景 具体的な取り組み 主な実施体制 16 時 00 分～16 時 30 分 ラオス国の看護の概要 JICA プロジェクトの変遷 長期派遣専門家の活動 詳細は別添資料 1-3 参照
------	--

4-2	
視察先	第 4 回医師国家試験(筆記試験)
視察内容	14 時 00 分～14 時 45 分 第 4 回医師国家試験の筆記試験視察 14 時 45 分～15 時 00 分 保健省保健人材カウンスル医師委員会との協議の詳細を以下に記載する 【医師国家試験の概要】 2 日間にわたり実施され、1 日目は実技試験、2 日目は筆記試験である。 - 筆記試験が午前・午後それぞれ 100 問、合計 200 問である。 - 受験科目に今年度から「倫理」を追加した。 - 去年の受験者数は 150 名、今年の受験者数は 254 名であり、うち中国 5 名、ベトナム 70 名、モンゴル 3 名と外国で教育を受けたラオ人の受験者も多い。外国人がラオスで働くためには、ラオスの国家試験が必ず必要となる。 【今後の展望】 - 現在保健省保健人材カウンスルは医師、歯科医師、看護助産、薬剤師で分かれているが、Thechnical Staff(理学療法士、放射線技師など)にも拡大していきたい。 - 今後免許を取得している医師のみが働けるようにしていきたい。免許のない医師が働いたことによる罰則もあるが、機能していないのが現状である。 - High Diploma 以上の学校を卒業している医師には手続きのみで免許を交付する予定である。海外からの受け入れも積極的に行っていきたいと考えている。

5	
訪問先	Setthathirath Hospital (セタティラート病院)
日時	2024 年 10 月 29 日(火) 13 時 30 分～15 時 00 分
目的	情報収集
目標	現地医療施設における看護の実際を知る。
講師名	Ms Khamlar Sioudom(Deputy Director of Setthathhirath Hospital) Ms Pindavone Phaxayyavong(Director of Nursing Department) Ms Xayyaphat Kingsada(Deputy Director of Nursing Department) Ms Somphai Davongsone(Deputy Director of Nursing Department) Ms Phovvieng Singvongxay(Nurse in Pediatric Intensive Care Unit) Ms Sakhone Inthphonedeth(Nurse in Obstetrics and Gynaecology Department) Ms Naphaphone Khatiyavong (Nurse in Infecttion and Tripical deseases Depertment) Ms Khamsouk Vetthana(Nurse in OPD)
目標との関連	行動目標に関連し、ラオス人民民主共和国に係る保健医療関連情報を収集する。
視察および講義内容	Ms Khamlar より、パワーポイントを用いて、以下のような概要説明があった。 13 時 30 分～14 時 30 分 病院の概要説明 看護部の組織体制や機能 詳細は別添資料 1-4 参照

6	
訪問先	Hatsayfong 郡保健局
日時	2024 年 10 月 28 日(月) 9 時 00 分～9 時 15 分
目的	表敬
目標	現地医療施設における看護の実際を知る。
講師名	Dr Sengthop Saiyasan (Hatsayfong 郡保健局長)
目標との関連	行動目標に関連し、ラオス人民民主共和国に係る保健医療関連情報を収集する。
講義内容	Hatsayfong 郡保健局長の Dr Sengthop Saiyasan、事務部長の Dr Selilak Oumnalhra に対して表敬を行った。 Dr Sengthop Saiyasan より Hatsayfong 郡の概要について以下のような説明があった。 Simano 保健センターは Hatsayfong 郡保健局が管轄している 6 つの保健センターのうちの一つで、医者はいない保健センターである。

	▪ 保健センターの設備、医療者の技術が不足しているためインフラ整備と人材育成を同時に取り組んでいるが予算が限られているのが現状である。 ▪ HANSA プロジェクトによる支援が2月より開始する予定である。
--	---

7	
訪問先	Simano Health center, Hatsayfong 郡(シマノ保健センター)
日時	2024 年 10 月 28 日(月) 10 時 00 分～14 時 30 分
目的	視察
目標	現地医療施設における看護の実際を知る。
講師名	Ms Hommala Keodalaphone(保健センター長、看護師)
目標との関連	行動目標に関連し、ラオスの保健医療関連情報を収集する。
視察および 講義内容	保健センター長(看護師)の Ms Hommala Keodalaphone より概要説明があった。その後、活動の様子を視察した。 詳細は別添資料 1-5 参照
備考	- 看護師 2 名および薬剤師 1 名のみ配置 - 医師が配置されていない保健センター - 管轄人口約 6,000 人

2) 渡航後国内研修

日時：2024 年 10 月 31 日 8 時 30 分～17 時 15 分

場所：国際医療協力局

内容：

8 時 30 分～16 時 00 分：出張報告書および報告会発表資料の作成、出張精算

16 時 00 分～16 時 30 分：報告会

16 時 30 分～17 時 00 分：修了式

17 時 00 分～17 時 15 分：アンケート

6. 研修評価

1) 目的

今回は事前に2回のオリエンテーションを実施した後、ラオスへ9日間渡航、帰国後に報告会を実施した。これらの一連の流れは、本研修の目標達成に資する内容であったか評価することを目的に、研修参加者2名へアンケートをFormsで実施した。本アンケートの結果をもとに、研修参加者の研修目標達成および満足度を評価すると共に、次年度への課題を明確にする。

2) 事前オリエンテーションについて

- ・ 開催時期、開催時間、研修内容、研修担当者からの連絡の4項目に関して、「大変良い」「良い」「どちらともいえない」「悪い」「非常に悪い」の5段階で評価した。2名の研修員ともに、全項目に対して「大変良い」と回答した。
- ・ 事前に知っておいてよかった内容として、「蚊対策」があげられ、知っておきたかった内容として「ラオスの国の情勢、文化や政治的なこと、看護職や医療に関わる法律」があげられた。

3) ラオスでの海外研修について

- ・ 総合満足度、研修先(ラオス)、研修時期、視察・訪問先、スケジュール、研修先での生活(宿泊、食事、交通等)の7項目に関して、「大変良い」「良い」「どちらともいえない」「悪い」「非常に悪い」の5段階で評価し、2名ともに全項目に対して「大変良い」と回答した。
- ・ 研修目標「ラオスに関わる保健医療関連情報の一部を収集できる」の達成度を1～5(1：達成度が最も低い、5：達成度が最も高い)の5段階で自己評価し、1名が「5」、もう1名が「3」と回答した。
- ・ 研修目標「ラオスに関わる国際医療協力局看護職の活動を理解する」の達成度を1～5の5段階で自己評価し、1名が「5」、もう1名が「4」と回答した。
- ・ 研修目標「自己課題を踏まえ、国際協力に必要な能力を理解する」の達成度を1～5の5段階で自己評価し、1名が「5」、もう1名が「4」と回答した。
- ・ 一般学習目標「国内および海外研修を通じ、グローバルヘルスの現状や介入手段などを理解する」の達成度を1～5の5段階で自己評価し、1名が「5」、もう1名が「4」と回答した。
- ・ 研修の良かった点に関して「中央病院2か所で講義を聞き、それぞれの違いを知ることができたこと」「看護の現場を知ることができたこと」があげられた。改善点は特にあげられなかった。

4) 帰国後報告会について

準備時間、発表内容の量、発表時間に関して3項目に関して、「大変良い」「良い」「どちらともいえない」「悪い」「非常に悪い」の5段階で評価した。準備時間、発表内容の量に関しては2名ともに、全項目に対して「大変良い」と回答した。発表時間に関しては1名が「大変良い」、もう一名が「良い」と回答した。

5) 次年度への課題

以上の結果から、研修目標は達成され、全体を通じおおむね適切な内容で構成されたと考えられる。他方、対象国の保健医療関連情報を知る上での社会情勢や文化に関する情報を渡航前に補足することで、より学びを深めることができると思われる。また報告会の発表時間を20分程としていたが、内容が濃く、徐々に発表が駆け足となり、最終的に2,3分超過した。更にその後の質疑応答も活発であり、報告会全体として5分程の超過がみられた。以上のことが発表時間への評価に影響したと考察する。発表時間、もしくは発表内容の見直しを行い、研修での学びを十分に発信できる場を作れるよう改善することが来年度に向けた課題である。

6) まとめ

ラオスで実施した本研修は、一般学習目標および行動目標を達成し、研修参加者の満足度も高かった。次年度も本研修をラオスで実施する意義はあると考える。

7. 別添資料

- 1) 視察記録(詳細)
- 2) 医療機関情報
- 3) 活動写真

1) 別添資料 1：視察記録(詳細)

別添資料 1-1：Mittaphap 病院

【手術室視察】

- 新棟手術室 5 室、旧棟手術室 10 室あり、看護師が 31 名配置されており、新棟と旧棟を行き来している。
- 一度配置された病棟は、将来にわたって異動しない。スキルやサービスの質向上が目的である。
- 手術室の看護師数は、15 部屋×2 名で合計 30 名必要であり、手術室看護師長が副看護部長に人員配置要請をしている。
- 手術件数は月 600～700 件である。
- 重症患者は ICU 経由、一般的には回復室に数時間滞在したのちに病棟に戻る。
- 看護師は、通常麻酔看護師 1 名、直接介助 1 名および外回り 1 名の合計 3 名が基本だが、看護師不足のこともある。
- 週末は緊急手術のみで、看護師はオンコールである。
- 術中記録は病棟看護記録を使用している。
- 麻酔医師が全体を総括し、薬の投与量などは麻酔医師が決め、その指示に基づき麻酔看護師が実践している。

【外来】

- 患者受診経路：受付トリアージ（看護師 A）⇒登録⇒アナムネ聴取およびバイタルサイン測定（看護師 B）⇒データ入力（看護師 C）
- 医療資機材管理：バーコードで看護師が管理している（新棟のみ）。
- 外来患者照合：登録番号を利用。
- VIP 診察室：追加料金で全科対応。一般受付とは別で、ほぼ待ち時間なし。

【VIP 病棟】

- 40 床で平均患者数 20 名程度、最大で 30 名。
- 平均在院日数 3 日程度、侵襲の大きい術後でも 5 日程度で退院許可は医師。
- 新棟：4 人部屋 25 万 KIP/日(食事なし)、2 人部屋 53 万 KIP/日(3 食付)。
- 旧棟：大部屋 15 万 KIP/日(食事なし)⇒食事は家族が準備。
- 医療保険：新棟 70%、旧棟 100%カバーだが、保険適用外の薬剤が多く、その場合は自己負担。
- 看護師 10 名配置(3 名、3 名、4 名で勤務表を回す)、24 時間勤務後に休みがある。
- 内服や注射薬は薬剤師が準備し、看護師が投与。ベッド番号で患者確認している。
- ⇒一度入院すると、基本的にベッド移動はない。

【質疑応答】

(質問) 採用計画はどのようなになっているのか。

(回答) 各科が必要な人数を看護部長に依頼する。看護部長がまとめて病院長に依頼し、人事部が病院幹部と検討し決定する。30 人の契約、国家公務員の定数が制限されている。何年か働いて公務員枠が空いたら採用になる。

以前は、一定の経験年数で公務員採用になった。国家公務員とは言わず、国家公務員の給料と同等にする。以前は契約社員と言っていたが、最近は準国家公務員と言っている。病院から給料が出る。

(質問) 離職率はどのようになっているのか。

(回答) 離職率が最近高くなっている。ラオスの経済状況が悪くなっているのが原因で 30 名程度退職した。看護師をやめて、他の分野に流出してしまう。国家公務員をやめてしまう。以前月給が 200 ドルであったのが現在はラオス KIP 安のため 80 ドル換算になってしまふ。

(質問) 看護師長が人事評価していると聞いた。中央の教育計画は看護師長がたてるのか。

(回答) 別々に研修している。集合研修は、副看護部長が計画立案および実施している。教育担当副看護部長は、各部署の研修に関する情報は上がってくる。シバーン副看護部長が承認しないケースもある。タイミングや内容容倍場合には、承認されない場合がある。ナショナルコンピテンシーに基づいて教育している。

教材作りや全国で使用可能なマニュアルを作成している。ミタパープは手術に関するマニュアルを作成した。

(質問) 各科に看護師長や副看護師長はどんな役割を担っているのか。

(回答) ユニット長が運営管理、機材や評価を担当している。副看護師長が 3 名いる。

① 患者管理

② 人事女性同盟労働同盟などが活動を計画している。

③ 物品管理

教育チームが 6 名いる。看護部長の承認が必要である。

(質問) 各看護単位から出てくる、記録委員会、業務委員会などありますか。

(回答) あります。環境管理委員会、災害委員会、感染予防委員会、

(質問) 現場で働いている看護師が委員会メンバーになることはあるのか。

(回答) 基本的にはユニットのチーフ。

(質問) 事故などが発生した場合の報告ラインはありますか。

(回答) あります。

(質問) 看護部の組織はどうか。

(回答) 29 科(看護部を含む) ICU 科(診療科長は医師。看護科長いる。看護科に属している)。

看護科(部に相当)もある⇒406 名の看護師の管理、教育、看護サービスなど病院全体の話。看護サービスの質の管理など 29 科にユニットがある。各科に看護師が配置されている。

看護師長⇒ユニットチーフと言っている。

(質問) 病棟看護師のスケジュールやマニュアルはあるのか。

(回答) 夜勤看護師の業務、役割なども決まっている。

(質問) 患者の入院生活は自由ですか？

(回答) 自由です。患者に任せている。医師の訪問や処置などがある場合、食事を待つようななどという指導はある。

(質問) 新棟、旧棟ができて、看護師を新棟に配置させた。新棟と旧棟の関係性はどのよう

になっているのか。

(回答) 新棟が旧棟をサポートすることがある。手術室では。新棟と旧棟ローテーションを行っている。

(質問) 他の開発パートナーの支援はあるのか。

(回答) 新棟はオーストリアのローンで新築した。旧棟はロシアの無償で建替え予定、医師の連携がある。技術協力は韓国、タイ、フランス、中国などが実施している。看護管理はタイと協力している。奨学金などでタイに研修に行く（1、3、6 か月などいくつかのプログラムあり）看護師は、中国や WHO の財政援助によりタイで研修している。タイは言語的バリアが少ないので、タイで研修している。看護管理能力強化に関するタイの協力がある。3つの中央病院でも感染管理の技術協力があつた。

別添資料 1-2：保健省保健人材カウンスル看護助産委員会

【看護助産委員会設立の経緯や機能】

- WHO の助言などを参考に 2017 年に Healthcare Professional Council(HPC)を設立。
- HPC には医師、歯科医師、看護助産の委員会がある。
- ASEAN MRA 締結後、JICA の協力により Strategy on Healthcare Professional Licensing and Registration system in Lao PDR 2016-2025 (通称 yellow book)を策定作成した。目的は、ラオスの医療サービスの質向上、保健人材の能力強化である。

【看護師国家試験制度創設の経緯】

- 看護師国家試験創設について、当初は WHO が契約したカンボジア人コンサルタントと共同し、筆記試験と実技試験を行う方針であった。その後、JICA 専門家との協議を経て筆記試験に限定することにした。助産師国家試験は、実技試験と筆記試験を課している。
- パイロット試験を実施した際の合格者は 1 名のみであり、その後、試験問題や合格基準の改訂を繰り返した。
- 2024 年 12 月に 5 回目の看護師国家試験が実施される予定である。

【看護師免許登録制度】

- 看護師国家試験合格後、仮免許を取得し、その後 8 か月のインターンシップ研修を経て、本免許を取得するのが制度設立当初のプロセスであった。
- 指導者育成などを行い、またインターンシップ制度を理解してもらうために、関係者を対象としたセミナーなどを実施した。
- インターンシップは良いシステムであるが、教育者が少なく、毎年 100 人ほどしか新人を受け入れることができないため、ラオスの現状とは不適合であることが課題であり、現在モジュールを作成中である。11 月には普及し、来年実行できるように準備中である。
- ナーシングコンピテンシーも改訂している。

別添資料 1-3：看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト（CPD PJ）

【具体的な取り組み】

- 新人看護師研修カリキュラムの確立と全国展開については主に、長期派遣専門家が担当している。
- 病院毎でどのような継続教育が実施されているか、情報収集し、今後カリキュラムに組み込む予定である。
- 免許交付後から現在まで、看護師がどのような研修を受けているか、をデータ化している。
- 免許制度や CPD の内容と調整し、より看護師の職務を明確化した「看護師助産師規則」と「看護師業務範囲」の改訂を行う予定である。

【主な実施体制】

- ナショナルスタッフは医療者ではないが、日本とラオスのカウンターパートを繋げる役割をしている重要な存在である。
- 免許のある看護師に診てもらった方が安心であるという国民の意識を強化するため、業務調整員は広報も実施している。
- 医師や薬剤師も看護師同様 5 年毎の免許更新があるが、初回の更新は来年である。看護師は医師、薬剤師に先駆けて、免許更新のシステム作りや CPD PJ を実施している。
- プロジェクト開始の経緯としては、PDM に沿った目標達成を目指している。プロジェクトが始まる 2 年ほど前に要望調査があり、その要望をもとにプロジェクトを策定する。年に 1, 2 回 JCC を行い、評価が実施される。最初から評価指標を立案すると、非現実的な指標を提示してしまう可能性があるため、具体的な評価指標はプロジェクト開始 1 年後に検討される。

【看護の概要】

- 看護師の総数は 6,981 人であるが、うち免許取得者は約 3000 人である。すでに免許を取得せずに看護師として働いている看護師に国家資格を受験する資格はなく、High Diploma 以上の教育課程を卒業した看護師には免許を配布するが、自己申告制としている。

【CPD PJ の概要】

- 各中央病院には各担当区域があり、担当区域内の県病院を指導する役割がある。
- 初回の看護師国家試験で免許取得した看護師に現状、また受講してきた研修の詳細を情報収集している。
- 初回の免許更新は 2024 年 6 月に実施する予定である。
- 免許更新には継続教育で 30 単位の取得を必須としたが、その受講者と受講者の単位数をどこで管理していくか、同時進行で検討している。
- 新人看護師対象研修モジュールにより各施設で必要な知識を 4 つに分割し、新人看護師が就職先で必要な内容の教育を受けられるように調整している。

別添資料 1-4 : Setthathirath 病院

【病院の概要】

- これまでも多く日本と協力しており、職員も何人か研修のため日本へ渡航したことがある。日本やフィリピンの支援を受けてきたが、現在はラオススタッフで運営管理をしている。学生への教育に使用する機械も日本からの支援を受けている。
- ベッド数：現在 250 床
- 職員数：558 名、うち看護師の職員数 189 名（14 名は総務関係）

【看護部の組織体制や機能】

- 看護部の中に教育、感染予防委員会、OPD、IPD、栄養推進などの担当を振り分けており、看護部長 1 名、副部長 3 名で担当している。
- 院内の管理者会議に看護部長が参加し、今後の方針が決定し、翌日に看護師長を集めて情報共有と会議を行う。
- 北部 6 県の県病院を担当し教育している。
- 日本の医学生 5 年生のインターン(ER・感染症)を受け入れている。
- 糖尿病専門センターがあり、看護学生の教育やイベントも実施している。
- 学生への教育を行っており、教育に必要な費用は保健省の支援を受けているが、いずれは病院が自立して行っていきたいと考えている。
- 能力強化を目的に病院内のスタッフへの研修教育も実施している。とくに電子化(IT)された看護記録の使用に課題があると感じている。
- 看護師の技術チェックを月 1 回実施し、それらを用いて研修計画の詳細を形成する。フィジカルアセスメントの研修も実施し、研修実施後に理解度の確認をしている。
- 1 か月に 2 回、教育委員会があり、週 1 回、研修計画を実施している。
- 院内で看護師長レベルに対しての看護管理の研修は実施していない。スタッフへの看護管理の研修は実施し、証明書を発行している。
- 看護師が大学に出向き、講義を行うこともある。
- 全体的に人材が不足しており、保健省に依頼しているが変わらないのが現状である。
- IC(感染管理部門)が感染管理や医療感染廃棄物を管理している。スタッフの感染管理チェックを年 2 回行っている。
- 感染管理委員会を 1 か月に 1 回実施している。

別添資料 1-5 : Simano 保健センター

【保健センターの概要】

- 職員数：看護師 2 名（産休中のため保健センター長 1 名）、ボランティア 1 名（薬剤師）
- 管轄人口は約 6000 人であり、うち 1～5 歳が 299 人、6～15 歳が 1165 人である。
- 1 か月の患者数は約 40～50 人であり、午前中出勤前に受診する患者が多い。お米の収穫の季節は住民が忙しく、患者数が減少する傾向にある。
- 高血圧、消化器系の疾患が多い。シンガポールのプロジェクトの介入で糖尿病の無料治療が可能となったため、糖尿病の患者は来ない。
- 1 か月半前に洪水があり、その後 1 か月メンテナンスのためサービスが提供できなかった。

た。

- 保健省によるモニタリングと指導が半年に 1 回実施されている。
- 保健センター配属看護師の人事は郡保健局人事局、県保健局が行っているが、最終的には保健省の判断により決定する。
- 郡保健局からの指名で配属が決まるが、前任者からの引継ぎはない。

【業務内容】

- 生活習慣病に対する生活指導を行っている。
- 郡病院や中央病院で主な治療をして後、継続的な治療を保健センターで実施することもある。申し送り資料は医師が作成している。
- 会計処理、物品管理等もすべて保健センター長が行っている。ボランティアはタブレットへのデータ入力を実施している。
- 学校に保健指導は、年に数回、季節性の疾患が流行する前に行う。学校に保健室はないため、学校でけがや事故があった場合は保健センターを受診する。
- 重症患者は郡病院か中央病院へ搬送するが患者の意思で来ないことも多い。保健センターは医療機器がないため、正確な判断ができず基準もない。目視で判断している。
- 蚊が多く発生する場所を調査し、予防対策をしているかを抜き打ちで確認している。
- 以前は家で出産する妊婦も多く、その手伝いもしていたが現在は病院で行われるようになった

【ワクチンに関して】

- ワクチン接種は予約制で実施しているが、村を巡回しワクチン接種をすることもある。
- 子宮頸がんのワクチンは学校に出向いて実施している。
- コロナのワクチン接種が開始したときは、希望者がかなり多く、郡病院の支援を受けながら実施した。
- 保健センターの患者数やワクチン接種数は郡保健局が把握できるシステムとなっている。昔は報告書を手書きで作成し、郡保健省に提出していたが、現在はタブレットに入力したデータが群保健局に共有されている。それらのデータに基づいて、ワクチン接種していないこどもの割合が把握できる仕組みになっている。保健所の目標としては管轄人口内のワクチン接種率 100%であるが、他病院（郡病院など）で接種している患者もいるため、100%にはならない。

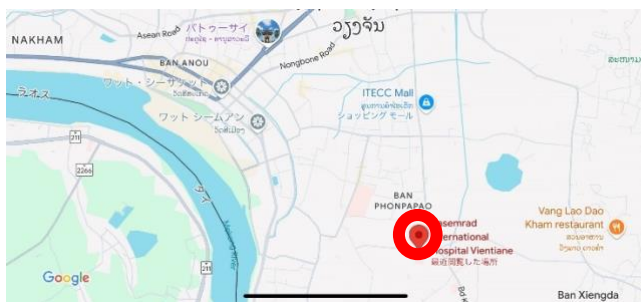
【薬剤に関して】

- 薬局で処方される薬と保健センターで処方する薬の成分は基本的に同じであるが、保健センターの方が安い。その認識もあるが、ラオス人はあまり病院を受診しない国民性である。
- 医師に処方箋がなくても購入できる。薬局の薬剤師の判断により、抗生剤を薬局で購入することも可能である。
- 保健センターには、保健省の許可を受けた薬しか置くことができない。新しい薬を置きたい時は相談する必要がある。

上記は研修参加者が通訳を介して、現地で情報収集したものである。従って、記載内容について国際医療協力局が責任を有するものではない。

2) 別添資料 2：医療機関情報

研修参加者などが受診可能と考えられる医療機関は、主に以下の 3 機関である。

1	
病院名	Kasemrad International Hospital Vientiane (カセムラートインターナショナル病院ビエンチャン)
診療時間	一般外来：8 時 00 分～18 時 00 分 救急は 24 時間対応
入院対応	可(254 床)
救急対応	可 病院専用救急コール 1661（英語、中国語、日本語通訳有）
診療科	内科、循環器科、消化器科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、歯科など
住所	No.999, 450 years road, Donnokkhoum village, Sisattanak district, Vientiane capital
連絡先	Mr Pakornkrit ATTASUTRA, Customer and Front service manager, iamtheboy@hotmail.co.th 021 833 333+856 (0)20 5599 4559
位置	

2	
病院名	Alliance International Medical Center
診療時間	月～金：8 時 00 分～20 時 00 分 土、日：8 時 00 分～17 時 00 分 夜間および休日も対応（医師は On call）
入院対応	不可
救急対応	不可
診療科	内科、小児科、皮膚科、産婦人科
住所	Souphanouvong Rd, Wattaiyai Thong Village, Sikhottabong District, Vientiane
連絡先	+856 (0)21 513 095

位置	
----	--

3	
病院名	Centre Médical Français
診療時間	月～金：8時30分～12時00分 13時30分～19時00分(水のみ17時まで) 土、日：9時00分～17時00分
入院対応	不可
救急対応	不可
診療科	内科、小児科、歯科、整形外科、理学療法、婦人科
住所	Bvd Kouvieng, Rue Simeuang, Vientiane
連絡先	+856 (0)21 214 150, +856 (0)21 215 713
位置	

3) 別添資料 3：活動写真



Mittaphap 病院手術視察



Mittaphap 病院看護副部長ら共に



看護助産委員長との意見交換



Simano 保健センター視察



Setthathirath 病院看護部長らと共に



修了証授与

8. 研修総括

看護職海外研修は、国立国際医療研究センターの看護職員を対象に 2012 年に開始され、今年度で 8 回目を迎えました。本研修は、グローバルヘルスに関連する国外での活動や現地の保健医療の現状を理解することを目的としており、国際医療協力局員の国内での活動を理解する「看護職実務体験研修」と連携して実施しています。2019 年度から 2023 年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止されていましたが、今年度より再開しました。

本研修は、これまでベトナムやカンボジアなどで実施してきましたが、今年度はラオス人民民主共和国（以下、ラオス）で実施しました。ラオスでは保健行政機関の訪問や医療施設の視察を通じ、現状と課題を学び理解を深めました。また、国際医療協力局員の国外活動を理解するため、ラオスに派遣されている局員を訪問し、現地での活動状況を視察するとともに意見交換を行いました。

今回は、グローバルヘルスの多様な事業形態の中でも、特に技術協力に関する分野を視察しました。まさに「百聞は一見に如かず」を体感されたことと思います。本研修を通じて得られた知見、現地の方々との協議を通じて得た気づき、語学を含むコミュニケーション能力の重要性を実感するなど、貴重な経験になったのではないかと思います。この経験を臨床看護の現場で活かして頂くと共に、グローバルヘルスに関連する事業への参画を期待しております。

最後に、本研修実施にご協力いただいた看護部関係者の皆様、そしてラオス関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

2024 年度 看護職海外研修

コースリーダー 田村豊光

サブリーダー 河原崎彩佳

2024 年度 国際保健医療協力実務体験研修
看護職海外研修
報告書

作成者

田村豊光 河原崎彩佳 菊池識乃 石井妙子

2025 年 3 月

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国際医療協力局

